ふるさとよもやま 新

「加茂の百年企業」その1

㈱小柳組
社長 小柳英治

当社の創業は現在の旭橋左岸低水護岸のあたり（熊倉酒店様付近）で材木の運送業（加茂川を利用した水運業）を営んでいたことが明治32年6月の「加茂町案内図」に記されています。その後、長岡町（現長岡市）で発生した大火災復旧の仕事で財を成し、その資金を元に、明治40年、建設業を始めたと社歴にあります。

初代社長 小柳寅次は建設業を起業するにあたり、当時、一番困難な仕事といわれた鉄道建設事業に挑戦。信越鉄道事業部（長野市）を通じて、信越線の仕事にとりかかったようです。大正8年には東京、長野市、長岡市、直江津町、新津町、など、各地に事業を拡大していった様子が、当時の新潟新聞から分かっています。関東大震災以後は東京での工事量が大きく増え、地方の鉄道工事から東京市内の鉄道工事へと業務を拡大し、青森県大間の下北郡陸軍省の建物の仕事まで請け負っていた記録が残っています。

加茂に関連するものとしては、大正10年、加茂小学校校舎増築（鉄筋コンクリート造）の工事中に関東大震災が発生。また、昭和44年の加茂川水害で流された鉄骨トラスの昭和橋、大橋、栄橋は信越線屋代篠ノ井間橋梁橋桁架け替え工事の品物を鉄道省から譲り受け加茂川に三分割してかけ渡したのも当社でした。

大正から昭和までの工事記録をみると、会社の事業主体は地元中心というより、新潟県全域及び、東京都内が主体だったようです。戦前、当社が受注した東京駅の建物が、まだ、地下の片隅に残っているかもしれません。

当社が特に力を注いでいたのは、昭和6年から始まった、糸魚川から松本に至る「大糸線」の工事です。昭和16年までは、材料輸送専用のディーゼル機関車を購入して、10年間仕事に集中していました。この工事には加茂市内からも沢山の人々が、糸魚川営業所に出入りしていたそうです。

上越線工事を請け負っていた当時、現在の八海山神社大倉口に社殿を寄進し、工事の安全を祈願したこともありました（現在も残存）。

戦後になると新潟県の県央地区を中心に工事を受注し、現在に至っております。

大糸線工事／昭和９年

㈱小柳組／番田9-1　TEL：0256（52）0252

いいともの わ

市内事業所の
個性豊かな社長さんや
店長さんなどの意外な交友関係をご紹介。
いつかあなたにも繋がるかも?

いいともバトン：No.32 登場の諸橋和伸さん ➡ 小林　仁さん

左／小林　仁さん（44歳）　右／佐藤伸也さん（45歳）

いいとも No.33

「㈱小林製作所」社長 小林仁さんの“**とものわ**”は「佐藤建築」代表 佐藤伸也さん。お二人は（一社）加茂青年会議所の活動で知り合い、同じ年に卒業しました。小林さんがマイホーム建築を佐藤さんにお願いしたことをきっかけにファミリーでのお付き合いがスタート。お子さんの年齢が近いこともあって、バーベキュー、キャンプ、フェス、スキーなど、家族ぐるみで遊びに行くことも多いそうです。アウトドア好きのお二人は、県内各地のキャンプ場を巡り、キャンプ飯はもっぱらパパ達が担当。キャンプグッズがどんどん増えていくそうです。

出会いから７年経ちますが、今でも月に数回は必ず顔を合わせているそうです。業種は違えど情報交換をしたり、時には相談ごとも。趣味の話をしていても気が付けば仕事の話になることもしばしば…と公私ともに素敵な交友関係が続いています。